受験番号	

氏　　名	

2023年度　東京未来大学入学者選抜試験
一般選抜　B日程（2月15日実施）

国語

【注意事項】

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

2　試験時間は1科目60分です。

3　原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

4　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

5　試験開始の合図の後、受験番号・氏名を、問題冊子と答案用紙の該当欄にそれぞれ正しく記入してください。

6　解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。

7　問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。

8　「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机上に置いてください。

9　試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。

10　その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I　現代文　一般選抜　B日程（2月15日実施）

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

何かが最初から(ア)カンペキにできる人はいない。あることを繰り返し経験していれば、初めてやってみた時に比べ、自分の行動が変わっていることは誰でも様々なことで経験しているだろう。

例えば、料理のことを考えてみよう。料理をまったくしたことがない人は、（　①　）、自分でどのような材料でどのような料理をつくるのか考えることが難しい。料理本などのレシピを見ながらチャレンジしてみる。最初はどの食材をどの形にどのくらいの厚さに切ればよいかもよくわからない。切るスピードも遅く、形も厚さも不揃いになってしまう。「お好みに応じて醤油を適量」と書かれていると「適量」がどのくらいなのか見当がつかない。

それが経験を積むにつれ、包丁の使い方も上手くなり、最初に比べて速く、きれいに切れるようになる。味見をしながら好みの味にするために調味料を加減できるようにもなる。料理の本のレシピどおりの材料がなくても、家にある食材でつくったり、別の食材で代用したり、ということもできるようになる。

ここまでいくと、もはや料理の熟達者といってよいだろう。しかし、上には上がいる。普通の人が普通の家庭の食事を手早くつくれる熟達のレベルと、プロの料理人に要求される熟達のレベルとはまったく異なる。もちろん、プロの料理人の中でもその腕前には個人差がある。他の人には真似できない、その人独自の「何か」がなければ一流の料理人とはいえない。同じようなことは言語の学習でもいえる。母語を流暢に話したり読んだりできるようになることは立派な熟達であるが、それは十分に経験を積めば誰もが達成できる熟達だ。そこからさらに俳句や詩、小説、ノンフィクションなどのジャンルで自分にしか書けないスタイルの文章を書くことのできる文筆家、言語の分析をする言語学者、プロの編集者など、多くの人がそれぞれの分野でことばを武器に道を(イ)究めていく。

カンは熟達者の真髄であると言ってもよい。将棋、囲碁の熟達者の直観はその発展形といえる。一手一手で最善の手を考え、それを積み重ねていく。次の一手についても、勝負を決める最終的な形についても正解はない。（　②　）、プロの棋士はこれから向かおうとする形について直観的に視ることができ、次の一手も直観によって無数の選択肢から候補を絞り込むことができるそうである。

将棋や囲碁では熟達者の「直観」の働き方は二種類ある。全体の終着点についての直観と、次の手についての直観である。多くのタイトルを持つプロ棋士の羽生善治さんは著書『大局観』で前者を「ひらめき」、後者を「直観」と呼び分けている。これは非常に示唆に富

む洞察である。

人が複雑な問題解決をするときには、その時々、その場その場でのポイントの判断だけではなく、事態がまだ解決から遠く、不明瞭な段階でも、最終的にどこに向かうのかというような直観が非常に大事なのである。しかし、熟達しないうちは、その時その場での（　Ⅰ　）な選択しか思い浮かべることができない。

羽生さんによれば、「大局観」とは様々な手を深く読まなくてもそのときの状況とその後の流れを一瞬見ただけで判断する直観で、経験を積めば積むほど精度が上がってくるものだそうだ。がむしゃらに読み込む力は若いうちのほうが強いが、熟年になるほど「大局観」が育っていくと書いている。「大局観」を言いかえれば、問題を大づかみに捉えて、ゴールが見えない局面でも目指す到達点をイメージできる直観である。熟達とは、将棋に限らずどのような分野でも、この直観を育てていく過程と言ってもよい。

熟達者は次にどのような手を選択するかに関する直観とともに、最終的な（　Ⅱ　）を見通す直観を持つ。このことは脳科学の研究から(ウ)シジされている。

理化学研究所のチームは実験で、将棋の盤面を次々に見せ、次の一手を判断してもらい、そのときの[A]脳の反応を計測した。脳の様々な部位の電位の変化（脳波）を脳活動の指標とした。脳の情報処理は絶え間ない電気信号の変化として頭の表面に出現する。頭の表面全体に細かい間隔で電極をつけ、それぞれの電極で電気活動の変化を拾い、どのように脳が反応しているのかを時間軸に沿って推定することができるのである。

提示した盤面には、戦略上意味のある駒の配置と意味のない配置があった。駒の配置が意味のある盤面を見たときのプロ棋士の脳は、提示直後に前頭部と側頭部に顕著な活動が見られ、さらにその後に頭頂部の反応が見られた。他方、意味のないランダムな駒の配置の盤面では、そのような反応は見られなかった。

研究チームは、意味のある駒の配置に対してのみ反応する前頭部と頭頂部は全体的な意味の理解に関わっていて、意味があってもなくても反応する側頭部は全体を構成する要素情報の認識に関わっていると考えている。つまり、脳の［B］と［C］のそれぞれで、全体的な意味と個々の要素が素早く並行的に処理され、その後に［D］において情報が統合されているということだ。言い換えれば、プロ棋士は盤面を見た瞬間に、その盤面の「意味」を認識し、一局面を見ただけで手筋の全体の流れが直観的にわかることをこの研究は示している。

熟達に伴う認知の変化とそれに伴う脳の機能と構造の変化は、様々な分野の学習が多様な形で脳内でなされることを示している。熟達の過程の影響は脳の特定部分の局所的な変化ではなく、ネットワークの変化として考えるべきである。「生きた知識とは何か」という問いについて、学習・熟達に伴う脳の変化が教えてくれること。それは、使うことができる知識は、事実の断片的な記憶の集積ではなく、

知識をいかに使うかという手続きそのものの記憶と切り離せない形で脳内に存在するということだ。

習熟していないうちは、物理の公式を口で言うことはできても問題を解くためにすぐに使えるわけではないし、英語の「a」と「the」の使い方について教科書に書いてあることは言えても、実際に英語を話したり書いたりする時に正確に「a」と「the」が使い分けられるわけではない。私たちが実際に使うことができる「生きた知識」は、単に事実を知っているという知識ではなく、それをどう使うかという手続きまでもいっしょになった知識なのだ。そして、その知識は、脳が学習し、知識をつかうための神経のネットワークを構築することによってつくられているのである。

熟達者は一瞬で状況を判断し、ものごとの本質を見抜くことができる。パフォーマンスは正確で素早い。何が起こるかを的確に予測でき、臨機応変で創造的に行動できる。そしてなにより、よいパフォーマンスとは何かということに対して明確なイメージを持ち、よいパフォーマンスとそうでないものとを峻別することができる。

（今井むつみ『学びとは何か―〈探求人〉になるために』岩波書店より　ただし、問題の文章は、一部省略してあります。）

一　文章中の（ア）・（ウ）のカタカナを漢字に直しなさい。また、（イ）の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。なお、ひらがな及び漢字は丁寧に書きなさい。

ア　カンペキ　　イ　究めて　　ウ　シジ

二　文章中の（①）・（②）に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア　だから　　イ　では　　ウ　そもそも　　エ　まるで
オ　つまり　　カ　しかし　　キ　そのうえ　　ク　やがて

三 文章中の（Ⅰ）・（Ⅱ）に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字三文字で答えなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

四 文章中の傍線部A「脳の反応を計測した」とあるが、その計測の仕方を最も具体的に説明した一文を探し、その文の最初の五文字を答えなさい。（句読点がある場合は、句読点も含む。）

五 文章中の［B］［C］［D］に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字三文字で答えなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。（BとCは順不同）

六 文章中に、本来段落分けすべきなのに一つの段落で書かれているところがある。その段落を探し、二つの段落に分けて、後半の段落の最初の五文字を答えなさい。（句読点がある場合は、句読点も含む。）

七 次に示す一段落が、本文中から欠落している。正しく挿入した場合、後に続く段落の最初の五文字を答えなさい。（句読点がある場合は、句読点も含む。）

> つまり、熟達といっても、経験を積むことで、最初はできなかったことが素早く、よどみなく、正確にできるようになるというレベルの熟達と、それを超えて、その分野で一流となり、さらに超一流になるレベルの熟達とがある。もちろん、これは連続する過程なのだが、熟達者の認知の特徴や学び方の特徴を考えるときにはここを分けて考えることが重要だ。

Ⅱ　言語事項・文学史　一般選抜　B日程（2月15日実施）

一　次の①～⑤の空欄にあてはまる漢字一文字を書き、ことわざや慣用句を完成させなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

① 月日のたつのが早いこと。　「光陰（　）のごとし」
② 驚きなどのため次に言う言葉が出てこないこと。　「二の（　）がつげない」
③ 経済状態が非常に苦しいこと。　「火の（　）」
④ 他人の疑いを招くような行為はするなということ。　「李下（りか）に（　）を正さず」
⑤ 調子の合わないこと。　「木に（　）をつぐ」

二　次の①～⑤のカタカナの部分を漢字に直すとき、最も適切なものを（　）の中から一つ選んで記号で答えなさい。

① 秋は人をカンショウ的にする。（ア 緩衝　イ 干渉　ウ 感傷）
② セイコウな作りの時計。（ア 製鋼　イ 精巧　ウ 生硬）
③ 危険をオカして救出する。（ア 冒　イ 犯　ウ 侵）
④ 彼の優秀さはシュウチの事実だ。（ア 羞恥　イ 周知　ウ 衆知）
⑤ 緊急動議を委員会にハカる。（ア 諮　イ 図　ウ 謀）

三　次の①～⑤の俳句の（　　）に入る言葉をア～ウから一つ選んで記号で答えなさい。

①　名月や（　　）をめぐりて夜もすがら　　松尾芭蕉
（ア　池　　イ　川　　ウ　山　）

②　山路来て何やらゆかし（　　）草　　松尾芭蕉
（ア　あざみ　　イ　すみれ　　ウ　さくら）

③　（　　）の海終日（ひねもす）のたりのたりかな　　与謝蕪村
（ア　春　　イ　冬　　ウ　秋　）

④　（　　）や月は東に日は西に　　与謝蕪村
（ア　夕暮れ　　イ　山の端　　ウ　菜の花）

⑤　これがまあ終（つひ）のすみかか（　　）五尺　　小林一茶
（ア　竹　　イ　草　　ウ　雪　）

Ⅲ　現代文　一般選抜　B日程（2月15日実施）

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

1　A二〇世紀の建築の一つの特徴は、装飾を排して機能を追究していることではないだろうか。それ以前の、たとえばロココなどに究極的にみられるごてごてした装飾は、いまはもう作ろうにも作れないかもしれない。そのような華美な装飾をなくしたかわりに、二〇世紀の建築があらわにしているのは、数学的な線の美しさである。アメリカのフランク・ロイド・ライトの建築もそうだし、スイスのル・コルビュジエの建築もそうである。

2　建築と数学的な美とが切っても切り離せないのは、なにも二〇世紀に始まったことではない。フランスのシャルトル大聖堂は、アラビア数学の粋を応用したものであるし、セント・ポール大寺院など、現在のロンドンの景観のほとんどを占める建築物を築いたのは、もともと数学者であったクリストファー・レンであった。しかし、二〇世紀の建築の線には、それらとは違う単純な美しさがある。

3　フランスとスイスの国境に近い、フランシュ＝コンテ地方の山の中に、ロンシャンという小さな村がある。そこの小高い丘の上に、ル・コルビュジエが一九四四年に依頼されて建てたBノートルダム教会がある。先日、そこを訪ねてみたが、その発想の新しさとシンプルな外観、内部の静寂な空間の構想の奥の深さ、そしてなによりもその美しさに、(ア)カンガイがひとしおであった。

4　外側は白と灰色で、コンクリートとモルタルの単純な作りである。左側に白い塔がのびて立ち、右側のコンクリートの屋根は、あたかも船のようだ。そこに大きさも形も深さも異なるさまざまな窓がちりばめられている。

5　内側はただ一つの部屋で、それらの窓にはめられた色ガラスから、暖かい光が差し込んでくるだけだ。この一見した単純さにもかかわらず、これは、厳密に計算された数学的な線の作り出す美である。

6　ロマネスク、ゴシックなど、ヨーロッパの伝統的な教会を見慣れてきたところで、このような(イ)斬新なデザインの祈りの場というのは、私には思いもよらないものであった。しかし、これは、ロマネスクやゴシックの伝統がもともとあったからこそ生まれてきた斬新性なのだろう。この驚きは、ヨーロッパの自動車や椅子の設計にときどきみられる驚きに通じるものがある。

7　（　①　）、このような単純で機能的で数学的な美を追究した近代建築とは、少し系統の異なる建築の発展が、少なくともイギリスにはある。それは、ダーウィンの進化理論と自然史に対する興味が啓発した、ヴィクトリア朝イギリスの建築である。

8　一八〇〇年代のヴィクトリア朝は、大英帝国の黄金時代の最後でもあるし、科学と宗教の闘いが、おおむね科学の勝利で終わる時

代でもある。もっとも、この闘いはそれほど単純なものでもないのだが。この時代、ダーウィンが『種の起源』を著して自然淘汰による進化の理論を公表し、大きな論争が巻き起こるとともに、植民地制覇の波にのって、世界の各地から自然史的資料が大量に集積された。人々はそれらに目を見張り、建築家たちも、それにおおいに影響された。

9 （ ② ）、一八五一年に万国博のためにロンドンに作られた水晶宮は、ジョーゼフ・パクストンの設計であるが、彼は、その基本的なアイデアを、アマゾンのオオオニバスの葉脈の作りに負っている。それは、それ以前の建築に特徴的な装飾を排し、単純な線だけで構成され、自然物が本来もっている機能性と美を十分に意識して建てられたものであった。一八五五年から一八六〇年にかけて、ヘンリー・エイクランドによって建てられた、オックスフォード大学自然史博物館も、まさに、地球のミクロコスモスを体現するように作られている。トーマス・ヘンリー・ハックスレイとウィルバーフォース大司教とが、一八六一年に、人類の祖先がサルであったことをめぐって論争を戦わせたことになっているのは、この建物の二階の部屋だが、この建物自体は、キリスト教的自然観と自然科学とが調和するという信念のもとに建てられている。すなわち、ここの正面玄関の左側には、罪のない、神を信用しきったアダムの彫像がある。右側には、疑いの声に耳を傾けているイヴの彫像がある。そして、その真上には、右手に神学の書物を、そして左手には、なんと核が分裂している細胞を握った天使の像が彫られているのだ。精神的な領域と、物質的な科学の調和が、願いを込めて表現されている。一八八一年に作られた大英博物館自然史博物館は、偉大な博物学者であったがダーウィンの進化理論には真向から反対した、リチャード・オーウェンの構想によるものだ。彼は、キリスト教的自然観を、あくまでも科学よりも上の統合原理として置くことを示すために、この建物全体を古典的な教会建築になぞらえて作らせたのである。

10 数学的な線や物理法則は、なぜ人間の審美的感覚を刺激するのだろう？　自然界の生物が作り出す形は、なぜ美しくみえるのだろう？　その答えは、数学や物理学ではなく、私たちの神経系の構成に関する生物学の中にあるに違いない。

（長谷川眞理子『科学の目　科学のこころ』岩波書店より）

一　文章中の（ア）のカタカナを漢字に直しなさい。また、（イ）の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。なお、漢字及びひらがなは丁寧に書きなさい。

ア　カンガイ　　イ　斬新

二　文章中の①と②に入る、最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア　つまり　　イ　もしくは　　ウ　したがって　　エ　たとえば
オ　ところで　　カ　しかし　　キ　やはり　　ク　すると

三　文章中の傍線部A「二〇世紀の建築」の特徴を1段落から二つ抜き出して、そのまま書きなさい。

四　次のア～カの建築物を、「二〇世紀の建築」と「二〇世紀以前の建築」に分けて、それぞれに該当する建築物を全て、ア～カの記号で書きなさい。

ア　フランク・ロイド・ライトの建築
イ　ル・コルビュジエの建築
ウ　シャルトル大聖堂
エ　セント・ポール大寺院
オ　ノートルダム教会
カ　ヴィクトリア朝イギリスの建築

五　文章中の傍線部B「ノートルダム教会」に関する記述がなされている段落を探し、その段落番号を全て書きなさい。（1～10の該当する番号を書くこと。）

六

9段落は、その書かれた内容によって大きく三つに分けることができる。三つに分けた場合の二つ目と三つ目のそれぞれ最初の五文字を答えなさい。（句読点がある場合は、句読点も含む。）

問題は以上です。